【　産業医の声（嘱託産業医のコーナー）　】

嘱託産業医の星

～産業医としての歩みと産業医面談の実際～

秋元　公彦（秋元労働衛生コンサルタント事務所 代表）

産 業 医 学 ジ ャ ー ナ ル
Occupational Health Journal
Vol. 40 No. 5 （平成29年 9 月）

嘱託産業医の星
～産業医としての歩みと産業医面談の実際～

秋　元　公　彦

平成20年に開業産業医としてスタートし，今年で10年になる．昨年，日本産業衛生学会産業医部会から「私たち頑張っています！」コーナーの寄稿依頼をいただき，今回さらに「産業医学ジャーナル」から御依頼いただき，感激続きである．

＜産業医としての歩み＞

医師として定年後に，産業医一本に絞って生きていこうと考えていたのだが，７年程前倒しで53歳の正月に産業医一筋の道にはいった．といっても，いきなり現在の40社さんと契約できるわけもなく，週３日は霞が関ビルにある大企業の非常勤産業医をした．そもそもその大企業の専属産業医をしていた先輩医師（といっても年齢はわたくしのほうがはるかに上だったが．）からの誘いを受けての形だった．

産業医に関心を持つようになったのは，遡ること平成10年に霞が関の官僚になった時からである．ひょんなことで「郵政省大臣官房人事部管理課保健企画室長」という役職についた時からだった．当時郵政省には約30万人の職員がおり，その30万職員の健康管理を担う責任者の一人となり，全国郵政関係の産業医（当時は健康管理医）の元締めになったわけである．全国から集まった産業医に向けて「皆様方の中には，『メンタルヘルス分野は苦手だし，危ないから手を出さない』と言われる先生がいらっしゃるようですが，とんでもないことです．産業医たるもの当然の業務としてメンタルヘルスに取り組んでいただく必要があります．」などと言っていた．ただその時点で私自身は産業医の資格をとっていなかったので，＜自分は産業医でもなんでもないのに，わかったようなことを言うんじゃないよ．＞という顔をされていたが．

４年間霞が関の官僚をしたのだが，「自分には現場があっているよなあ．」と日々思っていたので，希望調書に「現場の産業医」と書いて出したところ，福島県郡山逓信診療所の勤務になることが出来た．その後，ゆうぽうと健診センター長と社会保険中央病院勤務を経て，上記の独立開業に至る．

昨年12月19日に産業医科大学産業医学基礎研修会東京集中講座で１時間の講師を務めさせていただいた時のテーマは「産業医の実際」である．特に「嘱託産業医」としての仕事の実際をお話しした．基本月１回しか行けないので，日々限られた時間の中で最大限最高のパフォーマンスを心掛けている．

＜産業医面談その１：守秘義務編＞

毎月訪問している会社で，人事部長が交代になった時．程なく「人事部長が秋元先生に会いたいと言っているんですが，いいですか．」と，担当者から言われた．「もちろんいいですけど，一体何の御用事ですかね．」「なんか産業医さんに，産業医の仕事と会社の仕事の切り分けについてお尋ねしたいと言っているんです．部長がＡさんと面談した後に言い出したんですよ．」と．Ａさんはメンタル不調があって心療内科に通院している社員さんで，産業医秋元もほぼ毎月面談していた．いろいろはっきり物事をいう人で，体調を崩す前は，やり手の社員さんだった．

人事部長と産業医秋元の面談の日．挨拶もそ

こそこに,『仕事の切り分けを言いなさい』と部長．話の様子から，どうもAさんにいろいろ言いまくられたようで,その内容の中の「産業医もこれこれと言っているから」というセリフが非常に不快だったようで，切り分けの質問になったようだった．それにしてもちょっと所謂「けんかごし」の言い方は勘弁してほしいなあと思いながら，産業医の仕事について話をしていたら…ますます不機嫌そうな顔になって．「あ〜，どうもわかりにくいなあ．あのね，先生が彼と話をしている事，今ここで全部言ってみて．それで話を続けましょう.」と．

＜産業医面談その2：記録編＞

会社が大きくなって，産業医を新たに雇うことになった会社と契約することが多いのだが，前任の産業医が何らかの理由で退任し秋元が引き継ぐことも，もちろんある．そうした時に面談記録を引き継ぐ…はずなのだが．結構引き継ぐものなし，が多く，たまに「前の先生の面談記録です」と言って引き継ぐこともあるのだが，そのほとんどが会社の担当者から渡されるのだ．これっておかしいわけで，詳細な面談記録を作成しているのはいいのだが会社の社員さんによる保管はありえないでしょう，と思うのである．

秋元が産業医になった途端「鍵付きのバッグ」に全部入れ直して預かってもらう．毎月訪問した時にそのバッグを持ってきていただき，面談等の後，その日の面談記録等をバッグに入れてまた預かってもらう．

＜産業医面談その3：電話面談編＞

長時間勤務者の場合等，面談は基本的に相対して実施するが，勤務地等の関係で電話面談になることもあるわけで…．静岡で勤務中の社員さんと，長時間勤務者面談を電話で始めて，型通り「体調はいかがですか.」「睡眠はどんなですか.」等の話しをして，話の内容と電話の声の様子を記録に留めながら，最後にいつも通り「今なにか気がかりなこと，困っていることなどありませんか.」と尋ねたら，「この電話ですね.」と．

＜産業医面談その4：涙編＞

産業医面談はほぼ必ず，社員さんと1対1で実施する.その後フィードバック面談と称して，会社の方と話をすることもある.その際には「守秘義務に反しない範囲での補足的なコメントや（会社への）サポート情報の提供」をする．

5年前,新しく契約した会社の最初の面談で，いきなり3者面談の設定になっていて,「先生お願いいたします」と言われた．ちょっと面食らったものの，（この状況を本人も了解しているわけだから，と考えながら）①まずは本人と面談，②つぎに会社の担当者と面談した．メンタル不調の社員さんに対して，会社が過剰（と考えられるよう）な対応をしているので，本人との面談ではいつも通りに実施した．そして次に会社の担当者さんとの面談では，言い方は優しく中身は厳しくコメントした．最後のほうでは本人がうっすら涙目になっていた.（初対面だけれども，神髄にせまる話ができている時に結構経験することだった.）

面談が終わって，次の会社へ向かう途中，携帯に連絡がはいった.「先生,彼女にどんな話をしたんですか.」と.「秋元との面談の少しあとから，震えが出て来て止まらなくなり，休憩室で別の先生が付きっきりでみていて，今やっと落ち着いたところなんです．本人が言うには先生から「自分が会社のモラルハザードだ」と言われたというのですが，本当ですか」と．

＜嘱託産業医の星＞

産業医の3Kを考えた．①心優しい②詳しい（法令・裁判等）③経験豊富，はいかがだろうか．別の切り口としては，①臨床経験が豊富で②行政機関での勤務経験があり③健診機関でも働いていた，三拍子揃った産業医（これまた産業医秋元のセールストークなのだが）というのもある．がしかし，日々勉強，死ぬまで勉強，やはりこれが一番だと思っている．

あきもと　きみひこ　秋元労働衛生コンサルタント事務所 代表